

4. なぜ「わかったつもり」になってしまうのか

錯知…実際には理解しそこねているのに理解していると思っ込んでいる事。

理解度の主観的評価の実験では…「わかったつもり」の強さが露見。

→なぜ「わかったつもり」になるのか？

「わかったつもり」=錯知が生じている。

* その過程*

読む → 自分の中での理解 → 関連情報の自己処理 → 結論の想定 → 錯知

* メタ認知活動、理解モニタリングの過程*

読む → 自分の理解に矛盾を発見 → 警告 → 読み直し → 正しい理解

ただし錯知があると適切なモニタリングを妨げる。

◎自分の中での理解の誤りの原因…デフォルト仮定…基本的に自分は正しい理解をしていると信じること。

このように注意を払うことなく漫然と行動するさまをマインドレス (⇔マインドフル) という。

◎ マインドレスの原因①…情報に対する早まった認知的拘束



既に自分の中にある考えは揺らがない

例：第一印象

つまり関連スキーマが活性化している。

◎ マインドレスの原因②…条件付思考でなく絶対的思考をしている⇒相対主義&二元論
マインドフルになる為には条件付、相対主義的思考で。丸暗記でなく意味付けをして読むと記憶もよく定着する。

5. 十分勉強したかどうかを知る

テストの成績を正確に予測する為には…自分の理解度の正確な自覚が必要。だが…

十分勉強したかどうかを自分で判断できるという暗黙の了解、これは誤りである事が多い。

◎ より正確な把握術①…予備テスト…どこがわかっていないか check ができる。例：歴史

◎ " ②…馴染み感 (=既知感) にだまされない。例：数学の解法

自分の出した答に対して人はしばしば過信をしている。

→なぜ過信 (確信度 > 正解率の状態) しやすいのか？

容易に利用可能な情報に基づいて推論を行っている。例：ジャガイモの原産地

◎ 過信防止策①…記憶は不正確だということを自覚する。

◎ " ②…推論過程を吟味する。(根拠を調べる)

◎ " ③…個人的なフィードバック

自分の答に自信を持つ→さらにクリティカルに。